

veeam

Veeam Data Cloud で実現するデータ 保護への道

顧客導入ロードマップ





Veeam Data Cloudの導入は、複雑ではなく、分かりやすく感じられるべきです。このガイドは、IT実務者、クラウドアーキテクト、クラウドエンジニアをセットアップから検証済みの保護、運用準備まで案内します。設定、保護、復元を管理するチームを対象としており、ITリーダーには進捗やリスク軽減の可視性が提供されます。

オンボーディングプロセスが完了する頃には、貴社のビジネス継続に必要なデータの回復力をすべて、直感的でありながらもパワフルなSaaSプラットフォーム上で統合して得ることができます。

フェーズ1 基礎	フェーズ2 保護の開始	フェーズ3 検証とスケーリング
M1: アクセスを取得する	M4: 最初の正常なバックアップを完了する	M8: 保護内容を検証する
M2: 所有権を確立する	M5: バックアップと保持設定を確認する	M9: 対応範囲を広げる
M3: 最初のワークロードを接続する	M6: 基本的な監視習慣を身につける	M10: 高度な機能を段階的に導入する

ロードマップ概要

フェーズ	名前	重点
フェーズ1	基礎	アクセスを取得し、所有権を確立し、最初のワークロードを接続します。
フェーズ2	保護の開始	最初のバックアップを実施し、主要な設定を確認して、保護が期待どおりに機能していることを検証します。
フェーズ3	検証とスケーリング	セットアップに自信を持ち、Veeam Data Cloudの導入を計画的に拡大し、安定した運用に向けた準備を整えます。

オンボーディングプロセス後の成功の姿

チームは以下のことができるようになります。

- ・ チームの環境に自信を持ってアクセスし、管理できる。
- ・ 優先度の高いワークロードを確実に保護できる。
- ・ 最初のバックアップジョブを実行し、検証する。
- ・ 誰もが理解できる明確な復元ワークフローを確立する。
- ・ 役割、所有権、レビューのルーチンを定義する。
- ・ 次に拡張する領域を計画する。
- ・ どこで支援を受けられるかを把握する。



このガイドの使い方

各マイルストーンは前の段階を基にしているため、順番に自分のペースで手順を進めてください。

目次

フェーズ1・基礎	4
マイルストーン1：アクセスを取得する	4
マイルストーン2：所有権を確立する	5
マイルストーン3：最初のワークロードを接続する	5
フェーズ2・保護の開始	6
マイルストーン4：最初の正常なバックアップを完了する	6
マイルストーン5：バックアップと保持の設定を確認する	6
マイルストーン6：基本的な監視習慣を身につける	7
マイルストーン7：復元オプションを完全に理解する	7
フェーズ3・検証とスケーリング	8
マイルストーン8：保護が期待通りに行われていることを検証する	8
マイルストーン9：適切な範囲でカバレッジを拡大する	8
マイルストーン10：高度な機能を段階的に導入する	9
クイックチェックリスト	10
付録：クイックリファレンス	11

フェーズ1 基礎

目標：アクセスを取得し、所有権を確立し、最初のワークロードを接続する。

Veeam Data Cloudを使い始めて最初の1か月は、クリーンな基盤を構築する期間です。複雑に考えず、アクセス、ロール、そして最初のプロテクションパスの設定に集中しましょう。

ユーザーガイドやセットアップドキュメントは[こちら](#)からご確認ください。

マイルストーン1： アクセスを取得する

1. Veeam Data Cloudにアクセスできることを確認する

作業を始める前に、適切な担当者がVeeam Data Cloudと正しい組織にアクセスできることを確認してください。

まずはこちらから：

- **Veeam Data Cloud**サブスクリプションが有効になっていることを確認してください。
- 組織への招待を承諾してください。
- cloud.veeam.comでサインインしてください
- 複数の組織に所属している場合は、正しい組織を選択してください。
- 利用規約を確認し、同意してください。
- 最初の管理者が適切なアクセス権限を持っていることを確認してください。

新しいVeeam Data Cloud組織の最初のユーザーには、自動的に「**組織管理者**」ロールが割り当てられ、このロールによりユーザーの管理や設定操作を行うことができます。

オンボードするワークロードによっては、追加のセットアップ手順が必要になる場合があります。

Veeam Data Cloud for Salesforceを使用する場合は、次の2つのプラグインもダウンロードする必要があります。

[外部クライアントアプリをダウンロードしてください](#)。これにより、Veeam Data CloudがSalesforceに接続できるようになります。これは、環境を保護するための追加のセキュリティ機能です。Salesforceのエンドユーザーが各自のデータのアーカイブを解除できるようにするには、Salesforce拡張機能をダウンロードしてください。

Veeam Intelligenceを使用する場合は、[表示されるオプションメッセージに同意してください](#)。



✔ マイルストーン2： 所有権を確立する

所有権を早期に明確化する

よりスムーズなオンボーディング体験は明確な責任から始まるため、チーム内で次の点について認識を合わせておくことが重要です。

- プラットフォーム管理を担当するのは誰か。
- バックアップと復元のタスクを管理するのは誰か。
- 保護状況の可視性を必要とするのは誰か。
- ポリシーと保持の決定を承認するのは誰か。

ここで大規模な管理演習を行う必要はありません。十分な明確さを確立し、ベースラインに基づいて作業を進められるようにします。

適切なロールの割り当て

ロールベースのアクセス制御（RBAC）は、制御を失うことなく作業の効率化を実現します。このステップでは、次の点に重点を置きます：

- 昇格された権限を必要最小限のグループに制限します。
- オペレーターには業務に必要な最低限のアクセス権のみを付与し、余分な権限は与えないことで、最大限のセキュリティを確保します。
- 必要に応じて、管理上の所有権を広範な可視性から分離させます。

☐✔ マイルストーン3：最初の ☐☐ ワークロードを接続する

価値を最速で実感する方法は、実際のワークロードを保護することです。このステップで優先すべき事項は次のとおりです。

- 保護する最初のワークロードを選択する。
- 前提条件を検証する。
- 環境を接続する。
- サービスがバックアップ対象のデータを検出できることを確認する。

チェックポイント

多くのお客様にとって、これはオンボーディングプロジェクトがセットアップから進捗へと移行し始めるタイミングです。

フェーズ1終了時までに、次の項目が完了している必要があります。

- ✔ アクセスを確認済み
- ✔ 初期の管理所有権確立済み
- ✔ 主要なロール割り当て済み
- ✔ 最初のワークロード接続済み
- ✔ チーム用に製品マニュアルとセットアップ資料をブックマーク済み

フェーズ2

保護の開始

目標：最初のバックアップを完了し、主要な設定を見直し、保護が初回で正しく機能しているかを確認します。

環境の接続が完了したので、設定作業から復元と回復力の確認へと焦点を移しましょう。このタイミングで、チームは Veeam Data Cloud の真価を実感し始めます。

マイルストーン4：最初の正常なバックアップを完了する

Veeam Data Cloud/バックアップ

最初のバックアップが成功したことは、間違いなく重要な節目です。ご利用の環境が構成され、接続され、組織のデータを積極的に保護していることを示しています。

この段階では、以下の点に注目しましょう：

- 選択したワークロードの保護を開始します。
- バックアップが正常に完了したことを確認します。
- 警告や失敗した項目をその都度レビューします。
- 保護されたオブジェクトが期待どおりであることを検証します。

この時点では、スコープは実用的に保ちましょう。今はモードの有効性を検証している段階であり、すべての問題を一度に解決するわけではありません。

マイルストーン5：バックアップと保持の設定を確認する

保護が実行されたら、設定がチームの実際の日常業務と整合していることを確認してください。

このステップでは、次の点に重点を置きます：

- バックアップポリシー設定を確立する。
- 保持の選択を行う。
- 主要なユーザー、サイト、またはサービスの対象範囲を設定する。
- サブスクリプションプランに応じて利用可能な機能。

ここで、最初のバックアップジョブが運用保護の基盤となり始めます。



マイルストーン6：基本的な監視習慣を身につける

まだ大がかりなプロセスを確立する必要はありません。むしろ、このステップでは環境の可視化に集中して取り組みます。

このためのリズムを次のようにして作り始めることができます。

- バックアップのステータスを定期的に確認する。
- ダッシュボードやアクティビュを確認する。
- 適切な担当者がどこで問題を確認できるかを把握していることを確実にする。
- 診断のための簡易な定期体制を確立する。

自分の環境全体で何が起きているかを把握することで、単なる思い込みではなく、確信が得られます。

マイルストーン7：復元オプションを完全に理解する

このフェーズでは、チームが次の項目を実施できるようにしてください。

- 利用可能な復元オプションを特定します。
- 誰が復元を実行できるかを理解します。
- 基本的な復元シナリオを手順通りに実施します。
- 最初の復元ワークフローを文書化します。全面的な復元演習はまだ必要ありませんが、必要になる前に復元方法を理解しておく必要があります。

チェックポイント

フェーズ2の終了までに、次のことが達成されている必要があります：

- ✔ すべてのバックアップが正しく設定され、正常に完了しています。コアポリシーと保持設定は確認済みです。
- ✔ 基本的な監視ルーチンが整備されています。
- ✔ シンプルな復元ワークフローが確立され、チームに理解されています。
- ✔ 早い段階で、Veeam Data Cloudの保護が正常に機能していることに確信を得ることができました。

フェーズ3

検証および拡張への準備

目標：最初のバックアップを完了し、主要な設定を見直し、保護が初回で正しく機能しているかを確認します。

ここまでで、基本は機能しているはずですが、今こそ、検証し、見直し、そして組織の今後の方針を決定する時です。

マイルストーン8：保護が期待通りに行われていることを検証する

この機会に、一旦立ち止まって、いくつかの率直な質問を自分に問いかけてみてください。

- すべてのワークロードは保護されていますか？
- バックアップは一貫して完了していますか？
- 特にテスト後も、役割と所有権は明確ですか？
- 可視性、保持、復元の準備にギャップがありますか？

このチェックは重要です。これが、チームが単にデータ保護環境を設定する段階から、完全に信頼できる段階へと移行する方法です。

マイルストーン9：適切な範囲でカバレッジを拡大する

最初のワークロードが安定したら、次に論理的に優先すべき事項を特定しましょう。たとえば、追加ユーザーの登録、ワークロードのカバレッジ拡大、より完全なポリシー適用の確立、保護とリカバリの責任を共有するチーム間の連携強化などが考えられます。

スケールは実証の後に行うべきです。優先度の高い部分から着手し、自信を持って展開していきましょう。



☐+ マイルストーン10：高度な ☐☐ 機能を段階的に導入する

Veeam Data Cloud環境のセットアップと構築が完了した後、今後可能となることをチームがしっかりと理解していることを確認する時期です。

ご利用のVeeam Data Cloudサービスとプラン次第で、次のステージには以下が含まれることがあります。

- より広範なワークロード保護。
- 追加のAI機能。
- ビジネス要件により適合した、より強固な回復力戦略。

目的はシンプルです：利用可能な内容を把握し、次に注目すべきポイントを選びましょう。

チェックポイント

優れたオンボードを行うことで、チームが今後自信を持って運用できるシステムが手に入ります。

フェーズ3の終了までに、次のことを達成しているはずです：

- ✔ 初期設定が適切であるという確信。
- ✔ すべてのワークロードに対する検証済みの保護
- ✔ 明確な運用上の所有権。
- ✔ 繰り返し可能なレビューのルーチン。

クイックチェックリスト

即時アクション：

- **Veeam Data Cloud**サブスクリプションが有効になっていることを確認する。
- 組織への招待を承諾する。
- cloud.veeam.comにログインする。
- 初期管理者の所有権を確認する。
- バックアップと復元の担当者を特定する。
- 最初のワークロードを接続する。



フェーズ1までに：

- ユーザーロールを割り当てる。
- 初期設定を完了する。
- 初回バックアップの準備を検証する。
- 主要なセットアップリソースをチームと共有する。

フェーズ2までに：

- 全てのデータが正常にバックアップされている必要がある。
- ポリシーと保持設定を見直す。
- 基本的な監視習慣を確立する。
- リストアオプションと責任を理解し、それが自社のコンプライアンス要件に合致していることを確認する。

フェーズ3までに：

- 保護が要件に適合していることを確認する。
- 必要に応じて対応範囲を拡大する。
- 定常状態の運用レビューを確立する。
- 次に導入を検討する機能を特定する。

ITリーダー向けのメモ

最初の3つのフェーズでは、成功への道のりはプラットフォームの運用開始だけで終わるものではありません。

成功とは、すべてのデータが保護され、バックアップの正常性が可視化され、復元プロセスとポリシーが理解され、所有権が明確であることを意味します。これにより、不確実性や運用上の摩擦が減り、チームが最も重要なものを保護し、必要なときに復元できるという自信が高まります。

基本が整ったら、Veeam Data Cloudの可能性を最大限に引き出して、データ保護におけるパートナーとしてのVeeamの役割を実感いただけるようになります。

付録： クイックリファレンス

環境が進化するにつれて、これらのリソースはセットアップ、検証、継続的な運用にわたってチームをサポートします。

アクセスおよびアカウント管理：

- [Veeamアカウントの作成](#)：アクセスを設定して今すぐ開始します。
- [マイアカウント](#)：ユーザー、アクセス、サブスクリプションなどを管理します。
- [Veeam Data Cloudシステムの状況](#)：サービスのアベイラビリティと稼働時間

製品のガイダンスと設定：

- [Veeamヘルプセンター](#)：ユーザーガイドおよびセットアップガイド

トレーニング&イネーブルメント：

- [Veeam University](#)：セルフペースのオンボーディングおよび専門トレーニング。
- [オンボーディングに関するオンラインセミナー](#)：専門家によるライブオンボーディングセッション。

トラブルシューティングとサポート：

- [ナレッジベース](#)：トラブルシューティングとベストプラクティス。
- [Community Hub](#)および[R&D Forums](#)：ピアサポートとディスカッション。
- [サポートケースの作成](#)：サポートリクエストを送信して管理します。

最新状態の維持：

- [Veeam Data Cloudの変更履歴](#)：製品のアップデートと変更点。
- [リソースライブラリ](#)：ソリューションベースのリソースと業界レポート。
- チームで複数のサービスをオンボードする場合は、各グループが自分たちの担当範囲や成功の評価方法を明確にできるように、早い段階で社内の所有権モデルを文書化しておくことをおすすめします。

➔ [Veeam Data Cloudにログインして最初のワークロードの保護を開始しましょう。](#)



Veeam Softwareについて

VeeamはデータとAIを託す信頼のパートナー。組織が自社のデータとAIを完全に理解し、保護し、回復力を確保することで、安全なAIの大規模な活用を加速できるよう支援しています。データの回復力とデータセキュリティ態勢管理の両方における市場リーダーとして、Veeamはアイデンティティ、データ、セキュリティ、AIリスクを収束させることを念頭に設計されています。

シアトルに本社を置き、30か国以上に事業拠点を構えるVeeamは、世界中で55万社以上のお客様を保護しており、その中にはFortune 500企業の82%が含まれています。

詳細については、

www.veeam.com/jpをご覧ください。
か、LinkedIn (@veeam-software) およびX (@veeam) でVeeamをフォローしてください。